

## Thermo2025 中日巡検報告 (C コース : 金沢市) Report on the mid-conference field trip of Thermo2025 (Course C: Kanazawa City)

長谷部徳子\*  
Noriko Hasebe \*

\* : 金沢大学, Kanazawa University

### はじめに

Thermo2025 のホストとなった金沢市は歴史と文化を押し観光都市であるが、実は地球科学的な見所も多い。犀川と浅野川の下刻・堆積により形成された河岸段丘や、その削剥・堆積環境の変動に一役かった氷期・間氷期変動を堆積相として記録する大桑層など、金沢市の地形・地質の成り立ちに関連する場所に合わせ、歴史的な（主として江戸時代の）側面にも光を当てながら、金沢市巡検を企画した。

参加者は35名で巡検リーダーは北村晃寿（静岡大）と長谷部徳子（金沢大）が担当し、他に田村明弘および学生のサポーターとして奥村玲音・ガンバットシューハーズ（金沢大）が運営に協力した。また Local Organizing Committee の代表である田上高広先生もこの巡検に参加され、海外からのゲストのおもてなしに大きく貢献された。

### Stop 1 と 2 : 大桑層

石川県金沢市から北海道大島半島に至る日本海沿岸には、鮮新世から更新世前期～中期の海洋性堆積層が分布している。金沢市に分布する大桑層もそのうちの一つであり、犀川の河岸に、貝殻橋から大桑橋の間約 1.2km にわたり、連続的に露出している。大桑層の堆積相は氷期・間氷期変動による海水準の変化や海水温を反映して貝殻化石が密集した層と乏しい層の繰り返しが観察され、またそ

の生物種も変化する。当日は大変蒸し暑かったが、参加者は豊富に含まれる化石を観察し、また河原の草の種にくっついてそれを取るのに悪戦しながら、リーダーの説明に聞き入った。集合写真はあまりの暑さのために木陰で撮影し、残念ながら鮮明さに欠けるが、後ろには貝殻橋がチラッと垣間見える（図 1）。

### Stop 3-5, 8 : 河岸段丘と辰巳用水, 金沢大学

金沢市を歩くと坂が多いことに気づく人がいると思う。特に片町・香林坊地域、もしくは東茶屋街地域から、兼六園を目指す時、どの入り口から入るにもかなりの急坂を登ることになる。これは兼六園が小立野台地と名付けられた河岸段丘の上にあるためである。小立野台地の西には犀川が、東には浅野川が流れ、この二つの川に沿って河岸段丘が発達している。河岸段丘の形成は大桑層でみた氷期・間氷期海水準変動とも密接に関係する。卯辰山の見晴台から西を見ると、きれいに段丘地形がみえる。巡検の最後にこの見晴台に寄り、巡検のコースの総括を行った。午前中は、小立野台地が馬の背状に狭くなり東西の河岸段丘を見下ろせる場所があるためそこに案内した。また小立野段丘の上にある兼六園に水を供給する辰巳用水に沿う遊歩道を散歩し、辰巳用水の歴史的な役割や用水の石管に利用された石材について紹介した。遊歩道は竹林に囲まれており、京都の嵐山の

竹林が人気観光地であることから、ぜひ案内しようということになったが、好評だったかどうかは定かでない。途中、塩硝蔵の跡地があり、看板によりその縁を辿ったが、やはり遺跡や何らかの復元設備でもないと、印象には残りにくいだろうと思う。また辰巳用水の取水口がある辰巳ダムにも案内した。取水口本体は谷の下の方に見下ろす場所にあり、場所を知っていないとなかなか見つけられないが、資料として、手彫りのトンネルの写真の掲示などがあり、辰巳用水の建設にどれくらいの人的資源が投じられたかイメージを持ってもらうことはできた。昼食は金沢大学でとり、大学の入り口にある石碑で記念撮影を行った(図2)。

#### Stop6-7,9 : 文化体験と地球科学

午後は金沢の奥座敷とよばれる湯涌地区を訪れた。ここには江戸時代に利用されていた建物が移築された「江戸村」がある。江戸村には武士の家、農家の家、殿様が泊まる陣屋があり、参加者は実際に中に入り建築様式の違いを見ることができる。日本の古い文化を実体験できるコーナーも充実しており、畳の上で風を感じながらゆっくりする参加者もいれば、活発に、綿花から糸を紡いだり、竹馬に乗ったり、コスプレしたりする参加者もいて、とそれぞれ楽しんでもらえたのではないかと。驚いたのが竹馬の乗り方で、日本では足を板に平行に置くのが一般的であるが、垂直に足をおいて(板をお互いに向き合わせて足をのせる)上手に歩いていた参加者もいた(図3)。聞けば子供の頃、そのように乗っていたとのこと。調べてみるとドイツでの竹馬の乗り方のようなであった。また湯涌地区には温泉や足湯がある。足湯は多くの人が気軽に楽しんでいたが、温泉にも浸かった猛者もおられた(図4)。湯涌になぜ

温泉があるのかは浅学にして不明だが、この地域は白山から戸室山へとつながる白山火山列にのっているため、何らかの熱源が機能しているのかもしれない。

また学会会場に戻った後は、希望者とともに会場の隣りにある尾山神社へ歩いて向かった。尾山神社は金沢の一宮と言ってよい人気の新年のお参りスポットであるが、ここの門はステンドグラスが嵌め込まれており、印象的な観光スポットでもある。しかしぜひ見てもらいたいのには支柱をなす戸室石である。戸室石が取れる戸室火山は金沢大学よりさらに奥にあり、かつては金沢大学の学生実習などでも露頭を訪れていたが最近は植物に覆われてしまい現地には行きにくくなってしまった。しかし、尾山神社ではこの戸室石を労することなく観察できる。戸室石には青戸室と赤戸室があり、かつて金沢大学に在職されていた石渡 明先生がその成因を研究されていた。尾山神社では二つの戸室をきれいに並べて美しく飾っている。もっと注目されていていい観光資源である。

#### おわりに

今回はシティツアーということで気軽に参加したい人が登録してくれたかもしれないが、結局ガッツリとした地学ツアーだったと、最後の卯辰山見晴台で、参加者が感想を漏らしていたのが印象的だった。午後は湯涌地域で過ごしたが、街中を流れる辰巳用水や、各所で利用されている石材の紹介、金沢市内のモール泉での温泉体験なども面白い巡検ツアーになったかもしれない。金沢市ではないが、手取川 Geopark 巡りもよい巡検コースの候補である。まだまだ案内できるところがあった。今回のメニューが良かったのかどうか、今も自問自答している。



図1 大桑層の観察サイトにおける集合写真.  
Fig. 1 A group photo at the Omma Formation site.

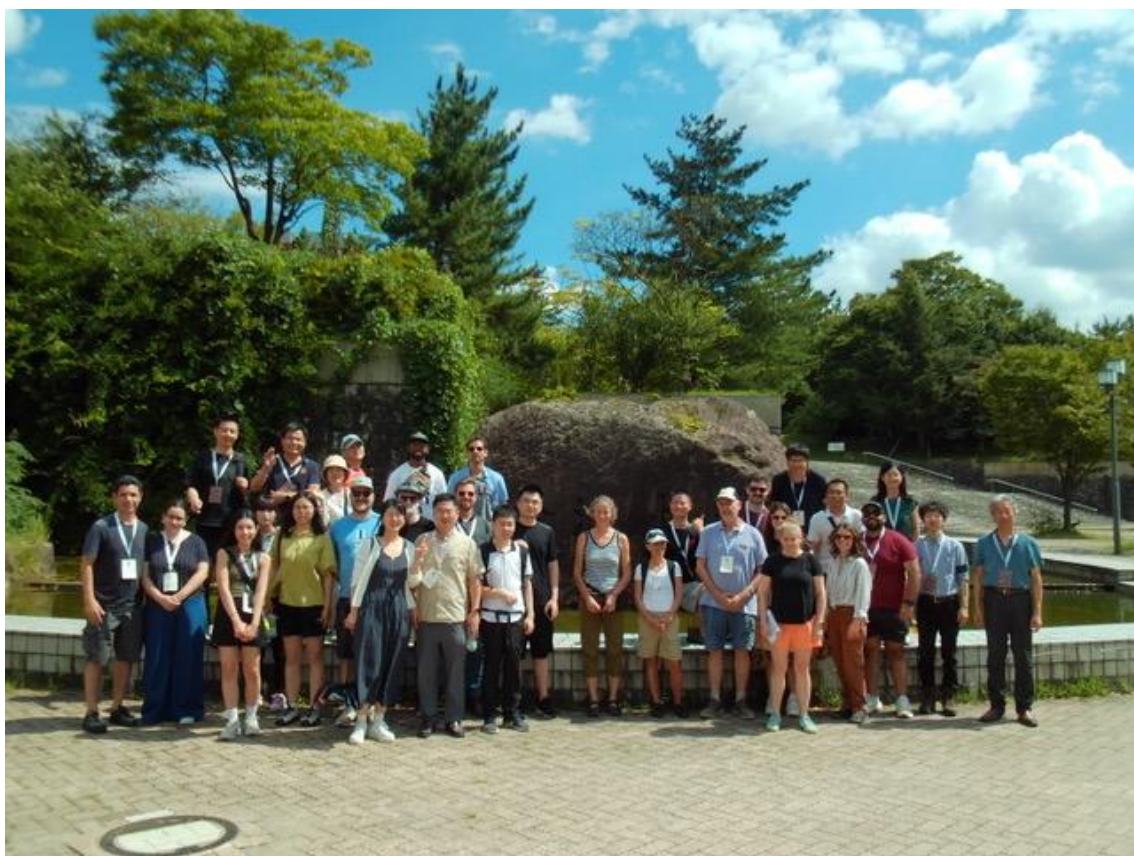


図2 金沢大学における集合写真.  
Fig. 2 A group photo at Kanazawa University.



図3 竹馬の乗り方の国際的違い.  
Fig. 3 International difference on Takeuma (stilts) techniques.



図4 足湯.  
Fig. 4 Footbath experience.